

## 第23回 全日本マスターズ大会 競技運営規程

### 1. 競技運営

本大会の競技運営は、この規程による。

### 2. 競技規則

競技規則は、2025年度(公社)日本ホッケー協会6人制競技規則に準じて行う。

#### 《確認事項》

- 1) 試合の成立について、参加申込時は6人必要であるが試合は4人以上で成立。
- 2) SO戦の開始位置は16m、時間は6秒。
- 3) ペナルティーコーナー時、残りの守備側選手はセンターライン向こう側の攻撃側16mエリア内。
- 4) ゴールキーパーの扱いについては11人制競技規則に準じて行う。よって全員がフィールドプレーヤーでもよい。
- 5) ペナルティーコーナー時、顔面または頭部全体を保護するフェイスマスクを着用する。(義務)

### 3. 競技時間

- ・試合時間は前後半12分間ずつとし、ハーフタイムは3分間とする。チームの準備ができていなくても3分経過と同時に試合を再開する。
- ・ペナルティーコーナーの判定が下されても試合時間は停止しない。
- ・ペナルティーコーナークロックの適用はないが、速やかに準備を行うこと。
- ・試合が引き分けで終了した場合は、予選リーグと決勝リーグ(女子43歳)の場合は引き分けとし、決勝トーナメントの場合は、シュートアウト戦(両チーム3名ずつ)を行い勝者を決定する。

### 4. 延長戦

- ・すべての試合において延長戦は行わない。
- ・決勝トーナメントで規定の時間内に勝敗が決しないとき、及び、予選リーグで同率になり順位を決定するときは、6.に定めるSO戦を行い勝敗・順位を決定する。

### 5. リーグ試合における順位の決定方法

- ・勝点の多いチームを上位とする。

勝点は、勝ちチームに3点、引き分けチームに1点、負けチームに0点をそれぞれ与える。

- ・勝点と同点のチームが複数ある場合は、下記の順序に従って順位を決定する。

◎4チームによる不規則なリーグ戦(変則リーグ)において勝点と同点の場合は、直ちにSO戦とする。

- 1) 「勝利数」の多いチーム。
- 2) 「得失点差」の多いチーム。
- 3) 「総得点」の多いチーム。
- 4) 当事者同士の試合で勝った方のチーム。
- 5) 「SO戦」6.に定める方法によりSO戦を実施し順位を決定する。

※この場合、大会本部で競技の進行を考え時間とコートを決めます。ご協力をお願いします。

変則リーグの対戦方法

- 1) 4チームリーグの場合 ① vs ②、③ vs ④、① vs ④、② vs ③

### 6. シュートアウト(SO)戦

- 1) 両チームの監督は、3名のシューターと1名のゴールキーパーを指名する。選ばれるプレーヤーは、当該試合にエントリーされていれば誰でもよい。ただし、レッドカードを与えられたプレーヤーは参加することができない。
- 2) 両チーム1名ずつのプレーヤーにより、交互に攻防を1回行い、勝敗を決定する。
- 3) 2のSO戦においても勝敗が決しないときは、勝敗が決するまで行う。その場合、シューターは変更することができるが、変更しなくともよい。
- 4) 同順位が3チームのときはリーグ方式により、4チームのときはトーナメント方式(抽選を実施)によりSO戦を行い、順位を決定する。

### 7. チームベンチ

- ・チームベンチには、エントリーされた18名(監督1名・役員2名・選手15名以内)以外は入ることができない。(但し、TDの許可を受けた者はこの限りではない)
- ・ベンチは、日程表の左側チームがテクニカルテーブルよりピッチに向かって左側のベンチを使用する。

### 8. 選手交代

・選手交代は、何回行ってもよいが、必ず記録席の管理のもと、所定の位置(センターライン付近)で行なうこと。その際、ビブスをもって交代すること。大会運営側ではビブスの準備はしないので各チームで準備すること。

## 9. 代表者会議

- ・試合に用いる用具の確認は試合開始前に行うため、代表者会議の際、持参する必要はない。（ユニフォーム2セットは持参すること）
- ・JHA登録証の確認はしません。ただし、監督がチーム会員証一覧等を常に携帯すること。
- ・参加者（チーム、競技役員、大会関係者）は、（公社）日本ホッケー協会が定める諸規程を熟知し、その内容に同意の上、「行動規範確認書」を提出したものとみなす。

## 10. スターティングリスト

- ・チームは大会参加申込書に登録された最大15名までのプレイヤーを試合に出場させることができる。
- ・スターティングリストの提出は不要とする。試合開始5分前までにチーム代表者は、当該試合のTOに対して、出場選手、先発選手、キャプテン、GK及び手当者を報告するものとする。
- ・監督、コーチは、参加申込書に記載のある者のみとする。

### 11. チームの服装、装具、カラー

- ・アンダーシャツの着用は、ユニフォーム規定を厳守。ロングアンダースパッツは原則認めない。
- ・対戦するチーム同士で、試合開始前にユニフォームのカラーについて協議すること。その際、同系色は避けるように協議すること。（代表者会議時に協議することを推奨）
- ・対戦チーム同士で協議、決定したとしても、競技役員から変更を指示される場合があるので、ユニフォームは必ず2着を会場に持参すること
- ・リングパスは、それぞれの日の当該チームにとって第1試合のみ実施する。

### 12. 試合の中断と追試合

- ・天候等のやむを得ない理由により試合が中断された場合は、下記によって試合を再開する。
  - (1) 追試合の場合は、中断したときの得点で残り試合のみ試合を行う。
  - (2) 追試合の期日・競技場・オフィシャル・審判員等は、これを変更することができる。

### 13. 表彰式について

- ・各種別の表彰式については、各種別の決勝戦終了後すみやかに実施する。  
また、準備の関係で開始時間・場所を定めることはできないので放送により案内する。  
ただし、男子40+、女子35の2種類の表彰は、競技終了後の閉会式の中で行う。

### 14. 抗議制度

- ・全日本マスターズホッケー大会において、抗議制度はない。

### 15. その他

- ・審判員は原則として2名で行うが1名の場合もある。この決定は大会TDが行う。
- ・ボールサーバーは配置しない。コート外にボールが出た場合は、当該試合のTOがボールを配給する。
- ・キャプテンマークは、上腕かストックキングの上部に付けること。各チームで準備すること。
- ・万が一、負傷した場合は、各チーム、個人の責任において処置をすること。
- ・駐車場で事故等、不測の事態が発生しても大会本部では一切の責任を負わない。
- ・荒天時で試合続行が不可能な状況の場合は、会場・時間の変更等について、大会本部の指示に従うこと。
- ・本規定に定めない事項については、大会本部の指示に従うこと。
- ・試合中、選手の乱暴なプレーや審判員に対する誹謗等、スポーツマンらしくない行為は厳に戒める。（監督・コーチ・フィジオ・応援団についても同じである。）
- ・選手が負傷により出血したとき、頭・顔・心臓付近にボールが当たったときは審判員が負傷状況を確認し、退場を命じられたときは直ちに退場すること。止血処理と傷の手当てが完了するまでは、再出場できない。また、この場合も含め、手当てする者等が該当審判員の指示によりフィールド内に入った場合は、2分間は再出場できない。（ゴールキーパーはこの限りではない）
- ・競技中の疾病・傷害等については、大会本部で応急処置を行うが、その後の治療等については各チームの責任において行うこと。
- ・棄権したチームが出た場合は（試合中にチームの選手が3名以下になった場合を含む）、没収試合としてとする。予選リーグ・決勝リーグにおいて没収試合があった場合は、そのチームの試合をすべて没収し、残りチームのみで順位を決定する。
- ・トーナメント戦において没収試合があった場合は、相手チームの不戦勝とする。
- ・今大会における、没収試合があった該当チームの記録上の得点は、5対0とする。  
ただし、この得点は得点王の対象外となる。
- ・得点王については、決勝トーナメント（決勝リーグ）に進出したチームから選出される。
- ・その他、本規程に定めない事項、または不測の事態が発生した場合は、TD・大会本部の指示に従うこと。